

令和3年度自己評価表

(様式1)

愛媛県立野村高等学校・本校(39)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
教育方針	豊かな自然、地域社会にはぐくまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある教育を実践する。人格の完成を目指し、調和の取れた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の進展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成する。	重点目標		新しい時代をたくましく生き抜く人材の育成 ～ 地域とともに、未来を探究する ～ 1 学校生活の基本的徹底を図り、社会から信頼される生徒を育てます。 2 確かな学力の定着を図り、希望する進路の実現を目指します。 3 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で逞しい人材を育てます。 4 地域との連携・交流を重視し、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育てます。 5 人権意識の高揚を図り、豊かな人間性と思いやりの心を持った生徒を育てます。 6 生徒一人一人を大切に個別指導や教育相談の充実を図ります。 7 読書や芸術に親しみ、豊かな感性や自己表現力を育てます。	
P T A 活動	保護者への情報発信及び学校との連携の充実	有事におけるPTA行事の開催方法を研究し、PTA活動を一層活性化させる。 防災訓練の見直しを図る。	C	PTA研修として、2月頃に校内の施設見学、PR動画鑑賞などを行い、野村中及び城川中のPTA役員の方々へも声をかけることとした。 退避防災訓練と同時に消防団加入促進事業を実施した。	コロナ感染予防の中でできることを探り、実行していくようにしたい。いろいろな想定で防災訓練を行いたい。
学習指導	家庭学習の充実	1日平均3時間以上の家庭学習時間確保と自主的な取組により、学力の向上を図る。 A 3.0時間以上 B 2.8時間以上 C 2.6時間以上 D 2.4時間以上 E 2.4時間未満	A	調査時における、各学年の家庭学習時間の平均について、1年生2.6時間、2年生3.0時間、3年生3.4時間となっており、1学期から全体的に増加傾向がみられるが、畜産科が全体的に少ない。	各学年の主任、正副担任、教科担当者が協力して、家庭学習の意義について理解させ、時間の確保を促す。クラスで目標を立てたり、学習時間の少ない生徒と面談をしたりするなど、具体的な対策をとる。
	教科指導の充実	皆勤率学年平均60%を目指し、自己管理能力を育成するとともに、小テストや課題の精選等きめ細かな指導により、学力の向上を図る。 A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 45%以上 E 45%未満	C	各学年の皆勤率は、1年生48.3%、2年生44.4%、3年生67.6%となっており、3年生は目標を達成できているが、1、2年生は達成できていない。	1、2年生の欠席については、2学期に増加する傾向があり、より細やかな指導を行う。2年生の皆勤率が例年に比べて低かった。日頃から、生徒一人一人の動向に注意し、教科指導、生活指導ともに、個々にふさわしい指導方法を工夫する。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	心のこもった挨拶の励行、身だしなみの徹底100% 交通安全の推進により、校外での事故・事件・違反ゼロを目指す。	C	コロナ禍マスク着用、大きな声での会話を控えるなど、挨拶については若干例年の元気が失われた感じはある。自転車事故は2件発生、重大事故には至らなかった。欠席者も目立つ。	身だしなみは良好である。ジェンダーに関して、制服や体操服の在り方の見直しを検討。交通安全について、啓発機会を多く設け事故防止に努めたい。
特活別働	自主的活動の充実	ボランティア活動、生徒会活動、学校行事に主体的に参加させる。	C	コロナ禍で行事の縮小、中止を余儀なくされ生徒が活動する場が、例年よりも制限された。	生徒の、自主的、自発的に活動できる場所を、コロナ禍でも実現させたい。
進路指導	進学指導の充実	進学目標達成の満足度100%を目指す。 難関大及び国公立大10名以上の合格を目指す。 A 10名以上 B 7名以上 C 5名以上 D 3名以上 E 2名以下	A  D	アンケート調査を実施して、現時点の決定進路に対する満足度は、「満足」、「やや満足」を合わせて100%の結果を得た。  現時点の国公立大学合格者は4名である。国公立大学合格者数は、昨年度に比べれば大きく減少しそうであるが、概ね想定していた程度である。	現時点での進路決定者については、目標が達成できていると言える。今後、国公立大学一般入試受験者の調査結果を踏まえて、来年度の方策を考えたい。  国公立大学の総合型、学校推薦型選抜入試の合格者を増やすためには、早い段階からの周到な準備と、一定水準の学力が必要であることを実感した。一方、校内では働き方改革や部活動時間の確保等の理由で、補習や土曜セミナー削減の声が高まっている。効率よく成果を出すという要求に対して、進路課として有効手段を模索していく。
	就職指導の充実	就職希望者全員の就職を実現させる。	B	現時点での学校斡旋就職希望12名は内定している。公務員も3名の合格であった。あと縁故と未定のもので4名いるので、希望を確認しながら進めていきたい。	7月のから就職希望者には補習を実施し、採用試験に向けた対策を進めている。また8月上旬には希望の企業へ職場見学にも行くことを進めており、指導は順調である。希望が変わることもあるが、もう少し早い段階で職種や企業選びを行ってほしい。
保健管理	保健管理の充実	毎日の健康観察や毎月の安全点検・報告により、健康、安全意識を高め、日本スポーツ振興センター申請件数減を目指す。 各自がコロナ等の感染症対策を自覚をもって行い、感染の予防に努める。	B	コロナ禍の渦中であり、日々の健康観察、学校での生活様式のあり方等について、呼びかけや環境の改善等で予防に努めた。学校での怪我については致し方ない部分もあるが、保健だより等で予防を喚起した。	感染が確認された場合の対応について、マニュアル通りにいかないケースもあり。特に県外に保護者がいる寮生については自宅待機に迅速に移れなかったり、不可能な場合も想定され、最新の対応方法をもとに、臨機応変に対応していく必要がある。
業務改善	職務の効率化及び快適で働きがいのある職場環境の整備	会議時間の短縮、職員提出書や職員・保護者連絡等のペーパーレス化を含め、職務全般に効率化を図る。 魅力的な学校づくりを通して、多忙感の解消及び職務充実感を高める。	C	コロナ対応の行事変更等で業務量が増加したが、ICTを活用したペーパーレス化、会議回数・時間を短縮できた。公営塾・地域と連携が進められている。	勤務時間の縮減、職務の効率化、事務処理の軽減、会議の精選等により、教職員の負担軽減を図る。 公営塾・地域と連携を強化し、総合的な探究の時間等の学習活動の充実及び進路実現力の強化を進めるとともに、諸活動を改善し魅力ある学校づくりを進める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
読指書導	図書館指導の充実	「朝の読書の時間」の改善や呼びかけ等により、図書館の利用につなげる。読書を通じて読解力の向上を目指す。 平均貸出数 A 5.0冊以上 B 4.5冊以上 C 4.0冊以上 D 3.0冊以上 E 3.0冊未満	C	1、2年（2学期末）、3年（1月末）時点での平均貸出冊数は4.16冊であった。	「朝の読書」の時間における読書活動が、クラスによってまちまちである。ビブリア・ライティングなどの取り組みもあり、若干の意識の向上がみられる。継続して、啓発などを行っていきたい。
情教報育	ホームページの充実	CMS方式によるタイムリーな情報発信を行う。また、個人情報保護に努める。 HP更新回数 A 週7回以上 B 週5回以上 C 週3回以上 D 週3回未満 E 更新なし	C	教職員の方々の御協力もあり、タイムリーな情報発信はおおむねできている。ただ、昨年度と比べると、更新平均回数が落ちてきている。 第1回調査（10/26～12/11）HP更新回数は平均4.7回。 第2回調査（1/11～2/15）平均3.9回。	基本的には、各割当て（当番）の順守を徹底する。各学校行事や部活動、生徒会活動などについては、HPの割り当て当番になっていなくても、生徒の様子などを随時の発信していく。
	教育支援クラウドサービス	Microsoft365教職員理解度100%	B	対象となる（teamsによる授業を行う）9割を超える教職員が基本的な操作ができるとの回答を得た。	さらに理解度を深められるような研修の機会も検討したい。アンケートなどはフォームズを基本とし、実際に使う場面を増やすようにする。
教相育談	教育相談の充実	生徒が抱える問題の早期発見に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	B	関係職員との連携もスムーズで、SLAIによる呼び出し相談も充実させることができた。	生徒の事例について、関係職員との連携だけでなく、他の教職員とも情報共有することで、多角的な支援ができるようにしたい。（共有できる範囲で）
特別教支育	特別支援教育の充実	生徒の実態を把握し、SLAや支援員との連携を図り、計画に基づいた支援を進めることにより、学校生活を円滑に送らせる。	C	支援員の協力のもと、生徒の課題や困り感への対応をその都度行ってきた。が、生徒自身の課題を改善するには至っていない。	支援を要する生徒への対応の一環として、関係機関との連携を充実させたい。
同和・人権・教育	人権意識の高揚	年間5回以上の研修や研究活動、交流学习等の人権委員会活動を活性化させ、人権意識を高めることにより、人権問題の解決を図る実践力を養う。 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回 E 1回以下	C	毎月の人権デーをはじめ、人権委員や教職員対象の研修会を計画通り実施できている。	研修会の回数だけでなく、その内容の充実を図り、意見交換や感想を通して、全生徒・教職員の人権意識・実践力の向上を、見える形にできないかと考えている。
農業教育	農業後継者育成指導の充実	農業の担い手を育てる。 卒業生の担い手率 A 12.5%以上 B 10%以上 C 7.5%以上 D 5%以上 E 5%未満	A	22人中3人（13.6%）であった。	就農予定者は3名で、関連産業就職者は3名である。昨年の値よりはこの値は低い。今年はコロナの影響で上半期の活動はできないことが多かったものの2学期後半に集約して行事等を実施できたので、後継者育成の一助となったと思われる。
	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会の各大会で優秀賞1つ以上、全国大会で優秀賞1つ以上を目指す。 入賞率 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 40%以上 E 40%未満	B	フラワーデザイン競技は入賞がないため、B評価である。	各種競技・各種発表は今年度も継続して成果を残している。携わる教員の熱心な指導など、現在の指導体制を今後も継続していきたい。また、活動には農業クラブ活動費等、必要などころに使える環境も大きな要因の一つで、後継者育成協議会等連携し、すべての面で生徒の育成に取り組んでいきたい。
学校魅力推進	全国募集の充実および公営塾の円滑な運営	地域みらい留学などの活動を通して効果的な全国募集を行う。 公営塾の運営を円滑に行う。	C	地域みらい留学による学校PRを行ったが、学校説明会・個別相談会へとつながる率が低く、とても効果的とはいえない状態であった。しかし、少数ながら、今年は8名の県外中学生が本校を訪れ、3名の生徒が本校を受験した。公営塾の運営は始まったばかりだが、順調な滑り出しを見せていると思う。	学校PRを行う際の戦略を大幅に変える必要があると思う。本校の売りである「畜産科」や「公営塾・地域の学び」のような新しいPRを行えばよいのではないだろうか。また、生徒を効果的に使うための作戦を練って臨む必要があると感じた。今後、生徒たちにとって、公営塾の活動が有意義なものになるように様々な面で協力していきたい。
寮務	基本的生活習慣の確立と安全管理の徹底	点呼、巡視による生活指導や設備などの点検を行い、寮内での事故をゼロにする。基本的な生活習慣が身につく、掃除なども率先して行えるような寮生を目指す。	C	今のところ寮内の事故0であり、今年はトイレなどの設備が大変充実した。寮生の基本的な生活習慣はまだまだであり、立派な人間になれるよう指導していきたい。	寮の設備が整っても、自分の部屋の整理や掃除などがきちんとできていない現状である。定期的に見回って、掃除させる習慣を身につけさせたい。朝起きにくいなどの生徒に対して、自立した生活がきけるような心配りをしていきたい。
施設管理	教育環境の整備充実	学習環境の整備の向上を図るとともに、施設・物品の早期修繕に取り組む。	B	一般の修繕関係においては早期対応ができた。産振設備では蒸気ボイラ・牛衝機を整備し、電子黒板も2学期末で設備を完了した。	施設設備機械等の老朽化による修繕が重なってきており、計上した予算だけの対応が難しいことが予想される。優先順位を協議して対応していきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。